

September 12, 2019

【前日の為替概況】ユーロドル、続落 ECB 追加緩和を実施との観測

11日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは続落。終値は1.1010ドルと前営業日NY終値(1.1043ドル)と比べて0.0033ドル程度のユーロ安水準だった。欧州中央銀行(ECB)が明日の定例理事会で追加緩和を実施するとの観測から、ユーロは主要通貨に対して売られた。23時30分過ぎに一時1.0985ドルと日通し安値を付けた。なお、明日のECB理事会では、中銀預金金利の0.10%引き下げ、マイナス金利がかかる対象を中銀預金の一部だけにとどめる負担軽減策の導入、フォワード・ガイダンスの強化などが予想されている。

市場関係者からは「明日の理事会で大規模緩和が打ち出されるかどうかは定かではない。理事会後にユーロが値を戻す可能性もある」との声も聞かれた。

ドル円は3日続伸。終値は107.82円と前営業日NY終値(107.54円)と比べて28銭程度のドル高水準だった。中国政府はこの日、来月予定されている通商協定を前に、米国製品16品目を追加関税の対象から除外すると発表。一方、トランプ米大統領は「中国がいくらか動きを見せた。大きな動きだ」と評価した。米中対立の懸念後退でダウ平均が227ドル上昇し約1カ月半ぶりの高値を付けたことなどが相場の支援材料となり、取引終了間際に一時107.86円と日通し高値を付けた。

もともと、NY市場に限れば狭いレンジでもみ合いに終始した。明日のECB定例理事会や来週の米連邦公開市場委員会(FOMC)、日銀金融政策決定会合など各国の金融イベントを前に大きな方向感が出なかった。NY時間の安値は23時30分前に付けた107.63円で値幅は23銭程度だった。

ユーロ円は3営業日ぶりに小反落。終値は118.72円と前営業日NY終値(118.76円)と比べて4銭程度のユーロ安水準。明日のECB理事会での追加緩和を織り込む形で円買い・ユーロ売りが進行。23時30分前に一時118.30円と日通し安値を付けた。ただ、前日の安値118.27円が目先サポートとして意識されると118.76円付近まで下げ幅を縮めた。

カナダドルは軟調。「トランプ米大統領はイランへの経済制裁緩和を検討」との報道が伝わると、原油供給が拡大されるとの観測からWTI原油先物相場が急落。産油国通貨とされるカナダドルに売りが集まり、米ドルカナダドルは一時1.3214カナダドル、カナダドル円は81.53円までカナダドル安に振れた。

【本日の東京為替見通し】ドル円、日米中株価指数上昇のリスクオンムードで底堅い展開か

本日の東京市場のドル円は、日米中株価指数上昇のリスクオンムードを背景に底堅い展開が予想されるものの、来週17-18日の米連邦公開市場委員会(FOMC)や米中実務者通商協定への警戒感から上値は限定的か。

本日も、米中実務者通商協定に向けて、中国と米国による駆け引きに注視しながら、下値は一目均衡表・雲の上限107.72円と上値は107.90円から108.00円にかけてのドル売りオーダー、超えるとストップロス買いの攻防を見極めていくことになる。

ドル円の短期的なテクニカル分析では、8月26日に年初来安値104.46円を付けてダブル・ボトム(104.87円・104.46円)を形成し、陽線新高値6手で三役好転の強い買いシグナルが点灯している。

昨日は、来週予定されている米中実務者通商協定に向けて、中国政府が9月17日付けで、米国からの輸入品への関税免除対象拡大を検討しているとの報道を受けて、米中通商協定の進展期待が高まった。しかしながら、トランプ米大統領が来年11月の米大統領選挙での再選に向けて大量購入を要請している米農産物(トウモロコシ、大豆、豚肉)を排除したことで、予断を許さない状況が続くことになる。

さらに、ムニューシン米財務長官が米中通商協定では為替相場と為替操作を協議すると述べていること、トランプ米大統領が香港問題を俎上に上げていることも、協議が難航する可能性を残している。

17-18日の米連邦公開市場委員会(FOMC)では第2次追加利下げが織り込み済みであり、利下げ幅の確率は0.25%が97.2%、0.50%が2.8%となっている。しかし、トランプ米大統領はマイナス金利を要請していることで、FOMC声明やパウエルFRB議長の会見で年内の利下げの射程を見極めることになる。

18-19日の日銀金融政策決定会合では、黒田日銀総裁がマイナス金利の深堀りを示唆したことで、追加緩和への期待感が高まっていることで円安要因となっている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）
- 08:50 ◇ 8月企業物価指数（予想：前月比▲0.2%/前年比▲0.8%）
- 08:50 ◎ 7月機械受注（予想：船舶・電力除く民需 前月比▲9.9%/前年比▲4.5%）
- 13:30 ◇ 7月第三次産業活動指数（予想：前月比▲0.3%）

<海外>

- 15:00 ◎ 8月独消費者物価指数（CPI）改定値（予想：前月比▲0.2%/前年比 1.4%）
- 15:30 ◇ 8月スイス生産者輸入価格
- 15:45 ◇ 8月仏 CPI 改定値（予想：前月比 0.5%/前年比 1.1%）
- 18:00 ◎ 7月ユーロ圏鉱工業生産（予想：前月比▲0.1%/前年比▲1.3%）
- 20:00 ◎ トルコ中銀、政策金利発表（予想：17.25%に引き下げ）
- 20:45 ☆ 欧州中央銀行（ECB）定例理事会、終了後政策金利発表（予想：0.00%に据え置き）
- 21:00 ◎ 7月インド鉱工業生産（予想：前年同月比 2.3%）
- 21:30 ☆ ドラギ ECB 総裁、定例記者会見
- 21:30 ◇ 7月カナダ新築住宅価格指数（予想：前月比横ばい）
- 21:30 ☆ 8月米 CPI（予想：前月比 0.1%/前年比 1.8%）
☆ エネルギーと食品を除くコア指数（予想：前月比 0.2%/前年比 2.3%）
- 21:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数/失業保険継続受給者数（予想：21.5 万件/169.0 万人）
- 13日 02:00 ◎ 米財務省、30年債入札
- 13日 03:00 ◎ 8月米月次財政収支（予想：1950 億ドルの赤字）
- 韓国（秋夕）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

11 日 11:28 豪準備銀行(RBA)

「必要ならば伝統的な金融緩和を導入する余地は依然ある」

「状況次第では非伝統的な金融政策手段を検討」

11 日 12:29 麻生財務相

「この 9 月に日米物品貿易協定(TAG)がまとまる」

11 日 13:39 環球時報編集長

「中国は貿易戦争の影響を緩和する措置を講じる」

11 日 14:41 中国(新華社報道)

「9 月 17 日付けで米製品への関税の適用除外リストを発効する」

「トモロコシ、大豆、豚肉は第 1 次適用除外リストに掲載しない」

11 日 16:25 メルケル独首相

「秩序あるブレグジットへのチャンスはいまだにある」

「独は合意なきブレグジットの準備はしている」

11 日 18:29 安倍晋三首相

「経済の下振れリスクに十分目を配り、顕在化すれば機動的かつ万全に対応する」

11 日 19:07 英国政府

(スコットランド裁判所がジョンソン首相の英議会閉鎖は違法と判断したことに対して)

「裁判所の判決には失望し、最高裁に上訴する」

11 日 19:46 トランプ米大統領

「FRB は政策金利を 0%か、それを下回る水準まで引き下げるべき」

「インフレはない！パウエル FRB 議長がただ単にだまされやすく、FRB は他国が行っていることをさせていない」

「米国は素晴らしい通貨、カ、バランスシートを備えている」

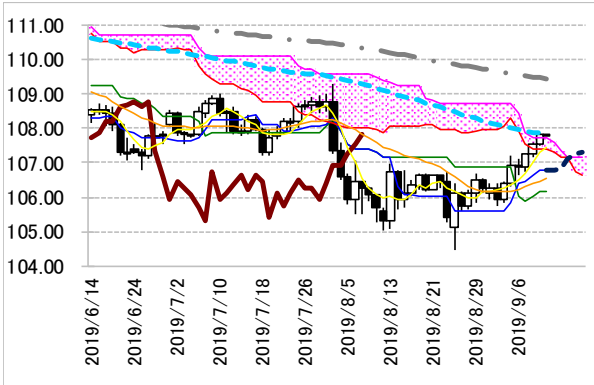
11 日 19:57 コンテ伊首相

「南伊の成長に拍車をかけるような特別な計画をたてたい」

「伊は成長と投資で債務を減少させたい」

※時間は日本時間

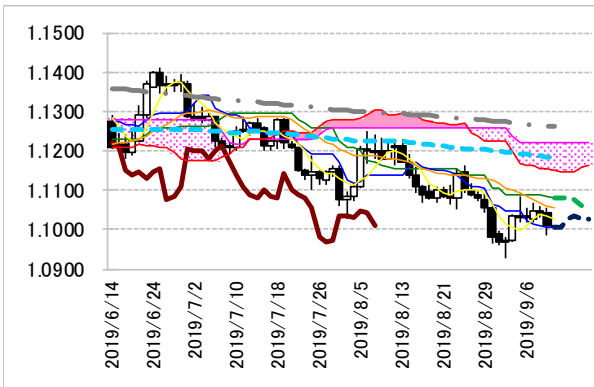
〔日足一目均衡表分析〕



<ドル円=雲こなし三役好転の強い買いシグナル点灯>

小陽線引け。一目均衡表・雲を上抜け、一時 107.86 円と 8 月 1 日以来の高値。一目均衡表の主要指標すべてが買い示唆となる三役好転の強い買いシグナルを実現した。低下中で重しとなる 90 日移動平均線に上値が抑えられ、雲からあまり離れることができず多少もたつき気味だが、買いサインを背景に上値を試す流れは継続しそう。低下する雲に沿って調整が進む懸念はあるが、再び雲を下抜ける可能性が高いねじれ部分の急所を、上昇を続ける見込みの一目・転換線がサポートすることが考えられ、堅調な基調を維持するとみる。

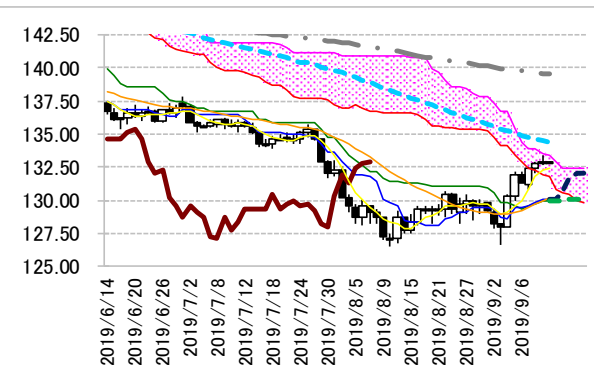
レジスタンス 2	109.32(8/1 高値)
レジスタンス 1	108.31(2018/10-2019/8 下落幅の 38.2%戻し)
前日終値	107.82
サポート 1	107.18(9/10 安値)



<ユーロドル=転換線付近の底堅さ維持し基準線こなせるか>

上影陰線引け。5 日移動平均線付近で下値を切り上げる展開が続いていたが失速。1.10 ドル半ばで集束しつつあった 5 日線と 21 日線付近から下落した。一目均衡表・転換線と基準線に挟まれたレンジの上抜けを見込んでいたが、低下する 21 日線に押されて下放れのリスクが高まりつつある。底打ちした転換線は、来週 17 日まで上昇が続く可能性を残している。その間に同線とともに持ち直せるかが鍵。一定の水準を維持すれば、低下する基準線の抵抗をこなすことになる。

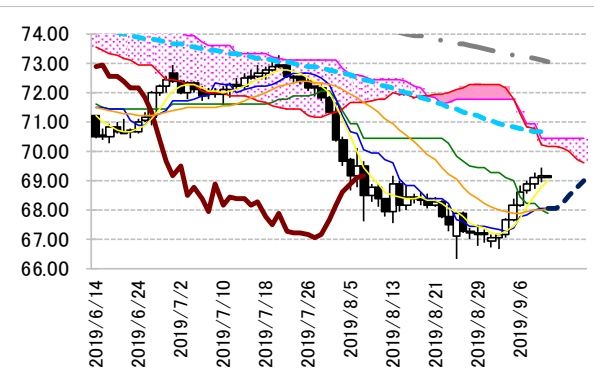
レジスタンス 1	1.1079(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	1.1010
サポート 1	1.0979(9/3 高値)



<ポンド円=雲の上抜けに迫る>

上影小陽線引け。一目均衡表・雲の中で上昇の流れは若干停滞も、高値圏は維持。雲の上抜けを試す展開となっている。133.44 円前後で低下中の 90 日移動平均線も抵抗だが、下値の一目・転換線は上昇傾向を継続。下押ししても底堅さを維持しそうな状況に変化はない。上向きの流れが続くだろう。

レジスタンス 1	133.43(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	132.91
サポート 1	132.29(ピボット・サポート 2)



<NZドル円=気迷い気味、運行スパン買い示唆維持は微妙>

極小陽線引け。8 月 7 日以来の高値圏で、気迷いを感じさせる足型を形成した。一目均衡表・運行スパンが付近のローソク足を上回る買い示唆の状態を明確に維持できるか微妙なところ。69 円割れ水準で推移する 5 日移動平均線を割り込む調整も視野に入れて臨みたい。だが、押し目が深目になっても、若干時間を置きつつも水準を切り上げる見込みの転換線が支えになりそう。底割れは回避できるだろう。

レジスタンス 1	69.78(7/22-8/26 下落幅の半値戻し)
前日終値	69.13
サポート 1	68.53(9/9 安値)

